

「弟子たちを派遣する」

2015年07月08日

ルカによる福音書9章1節～6節。イエスは十二人を呼び集め、あらゆる悪霊に打ち勝ち、病気をいやす力と権能をお授けになった。そして、神の国を宣べ伝え、病人をいやすために遣わすにあたり、次のように言われた。「旅には何も持って行ってはならない。杖も袋もパンも金も持ってはならない。下着も二枚は持ってはならない。どこかの家に入ったら、そこにとどまって、その家から旅立ちなさい。だれもあなたがたを迎え入れないなら、その町を出ていくとき、彼らへの証しとして足についた埃を払い落としなさい。」十二人は出かけて行き、村から村へと巡り歩きながら、至るところで福音を告げ知らせ、病気をいやす。

主イエスは12人の弟子たちを呼び集め「神の国」の宣教に派遣された。マルコ福音書6章7節に「二人ずつ組にして遣わすことにされた」と書かれている。二人だと心強いこともあるが、二人または三人の証言によって真実が証明されたからである。派遣に際し、主イエスは悪霊に打ち勝ち、病気をいやす力と権能を授けた。彼らは喜び勇んで宣教に赴き、神の国を宣べ伝え、病人をいやすために町々、村々を巡り歩いた。

この時、主イエスは弟子たちに諸注意を与えている。①「旅には何も持って行ってはならない。」素手で伝道をする。日本で伝道する場合、あれがあれば、これがあればと思うことがしばしばである。主イエスは何も持つなと言われた。あなた方の伝道は神が責任を持ってくださるということであろう。②「杖も袋もパンも金も持ってはならない。」杖は歩き易くするだけでなく、護身用に使うものであるが、それも不要である。袋は必要なものを入れ、いただいたものを入れる便利なものであるが、それも持つな。パンと金は生活を支えるものであるが、それも持つて行くなと言われる。マタイ福音書10章10節bに「働く者が食べ物を受けるのは当然である」と書かれている。しかし、弟子たちの宣教生活は貧しいものであったことは確かである。③「下着も二枚は持ってはならない。」④「どこかの家に入ったら、そこにとどまって、その家から旅立ちなさい。」町や村に入ったら、一軒の家に留まり、町中、村中を歩き「平和があるように」と言って伝道する。宿った家に留まり続け、その家から次の伝道地に旅立てと言われる。隣の家の方が居心地がいいなどと思うと、腰が据わらないからであろうか。⑤「だれもあなたがたを迎え入れないなら、その町を出ていくとき、彼らへの証しとして足についた埃を払い落としなさい。」伝道は受け入れられることもあるが、拒絶されることも多い。拒絶された時は腹が立つが、異教の地から帰って汚れを落とすように、足の埃を払って抗議の証しにせよと言われる。マタイ福音書10章13節に「家の人々がそれを受けるにふさわしければ、あなたがたの願う平和は彼らに与えられる。もし、ふさわしくなければ、その平和はあなたがたに返ってくる」と、拒絶された場合、神の平和があなた方に与えられると、困難な伝道に立ち向かう弟子たちへの主イエスの優しい配慮が表されている。

主イエスの「神の国」の宣教は信仰共同体を形成する目的ではなかった。あなた方のただ中に神はおられ、祝福と恵みがあると告げ、その現実を示されたのである。聖霊降臨後、イエスを主キリストと信じる信仰共同体が形成された。信仰を共にする者たちが群れを作ることは必然であるが、共同体の形成のみが目的になっていくと、一人ひとりを生かす福音から逸脱し、勢力拡大の野心へと墮落する危険も、しっかり自覚すべきであろう。